

避難してよかった。

犠牲者0をめざして

ここでは、今まで『土砂災害』について学習してきたことを思い出しながら、実際に、土砂災害を経験した人々のお話をうかがってみましょう。



レポーターの佐藤がご案内します。

わたしは今、鹿児島県垂水市にきています。



1

そのことをきっかけに、住民の防災に対する意識が変わり始めたのです。



2

どのような様子だったんですか？



3



4



5



7



6



8



9



みんなで防ごう土砂災害

『土砂災害防止月間』

6月1日～6月30日

毎年各地で土砂災害が発生しているため六月を土砂災害防止月間として国と都道府県が市町村などと協力し、みんなで防ごう土砂災害をテーマに様々な活動をしています。土砂災害防止月間の取り組みの一つとして土砂災害に関する絵画・ポスター・作文をみなさんから募集しています。
この作文には、鹿児島県の小中学生が土砂災害について教わったこと考えたことなどが書かれています。みなさんも土砂災害について家族や近所の人に聞いて、思ったこと、考えたことを作文に書いてみましょう。

「命を守るために」

令和七年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）
鹿児島県 鹿児島市立皆与志小学校 四年 川田 夏菜 かわた かな

「どうしよう。ひなんした方がいいかな。」
八月八日の朝、兄のスマホのきん急通報の音で目が覚めました。わたしはあわててテレビをつけました。大雨特別けい報が鹿児島県に発令されていることを知りました。

前日までは晴れの日が続いていたので、ニュースでは「めぐみの雨」と報道されていました。しかし、夕方からふり出した雨は、夜ねむるころになるとはげしくなり、かみなりもなり始めました。はじめはゴロゴロと遠くでなっていたのに、どんどん音が大きくなっていききました。ゴロゴロ、ドーン。かみなりが家の近くに落ちて、何度も目が覚めました。その度に、大丈夫かなと不安になっていました。やっぱりふつうの雨じゃない。兄と姉はあまり心配していない様子でしたが、わたしは母が仕事で家になかったので、とても心配でした。兄は大雨のえいきようでアルバイトにも行けなくなりました。

夕方、やっと母が帰ってきました。
「きり島市は、川がはんらんして土砂くずれも起きているんだよ。道路もかん水して、大変なことになっているよ。」

母からじょうきようを聞いて、家の近くの川が気

になりました。これだけ雨がふれば、川の水もかなりふえているはず。もしはんらんしたらどうしようと思いました。すぐに思いついたのが、「垂直ひなん」でした。わたしの家は二階建てなので、いざいとうときには二階にひなんできます。でも、はんらんする前にひなんできた方が安心です。ふと、わたしの住んでいる所に一番近いひなん所がどこか、気になりました。そこで、鹿児島市のハザードマップで調べてみました。わたしの通っている皆与志小学校は、ひなん所になっているけれど、こう水や土砂災害のときにはひなんできないしせつになっていました。一番近い他のひなん所に行くには、車でいどうしないと無理だということが分かりました。早めのひなんが大事だなと思いました。

持ち出しできるひなんグッズも必要だなと思いました。わたしの家には、食べ物はいくらもあるけれど、すぐに持ち出せるようには準備していません。わたしは、食べ物他に、毛布やかい中電灯などが必要かなと考えました。今度家族で話し合って、必要なものを持ち出せるように、備えておきたいと思いました。

「自分にできること」

令和七年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）
鹿児島県 日置市立伊集院中学校 三年 小岡 諭依 こが ゆい

「土砂災害は他人事ではない」
そう思ったのは、今年の春休みのことだった。私は母と日吉町の毘沙門自然の森公園というところに桜を見に行った。

「わぁ、きれいだね。」
その日は、桜が満開でお花見をしにきた人が多くいた。桜もきれいだっが、周りに田んぼや山もあつてのんびりするにはいいところだった。周りを見ると、「地すべり記念碑」というのが目に留まった。その記念碑には、「平成五年九月二十日に人家を倒壊して住民五名を巻き込み、うち二名が死亡するという大規模地すべりが起こりました。」と書いてあった。

私の住んでいる日置市で過去に土砂災害があったというのに驚いた。そして、死者がいたと書いてありさらに驚いた。なぜ、今まで知らなかったのだろうと思った。
帰宅してから、どうしても気になったので調べてみた。インターネットで調べてみると、山の半分が崩れていてそこから土砂が一面に流れ込んでいる写真や土砂の下敷きになって家が曲がっている写真があった。その写真を見てとても心が痛んだ。地すべりが起こった日は8・6水害が起こった年と同じ年だった。地すべりが起こった場所とは日吉町と伊集院町との境にある矢筈岳の西側で、その日の降水量は九ミリ、一週間の総雨量十五ミリだったそうだ。私は地すべりが起こった日は今までにない大雨かと思

っていたが、そこまでの大雨でないことを疑問に思

った。
地すべりの原因は七月から九月にかけての集中豪雨や台風に伴う大雨だった。また、地すべりが起こった時間は午後七時五十分頃。私ならその時間は夜ご飯を食べている時間だ。そこに住んでいた人もおそらく夜ご飯を食べていたと思う。まさかそこまで雨が降っていない日に地すべりが起こるなんて絶対思わなかったはずだ。

また、今年の八月には、姶良市でも土砂崩れによって亡くなった方がいた。近くに住んでいた人はインターネットで、「この地区ではそういう大きい土砂崩れは今までなかった。」と話していた。

このことから土砂災害はいつ、どこで起こるかとは分からないというのを改めて感じた。大丈夫だと思っても土砂災害は起こるときには起こる。そこで、土砂災害から身を守る方法はないかと思いい、日置市のハザードマップで調べてみると前兆には次のようなものがあると書かれていた。

その中の三つあげると、一つ目は雨が降り続いているが川の水位が下がる。二つ目は異様なにおいがする。（土臭い、木におい等）三つ目は山鳴りがする。この三つは、視覚や嗅覚、聴覚で感じられるものと分かる。

そして、毘沙門地区で起きた地すべりで三人が救出できた理由は、当時消防団だった人が地域の人と

した。
今回の大雨で、災害が起こったときだけでなく、日ごろから災害に備えて、自分の命を守るようにすることの大切さを感じました。二学期が始まり、わたしは社会の学習で自然災害について学習しています。鹿児島市ではこれまでにどんな災害があったのか、調べてみたいと考えています。かこの災害のひ害や対策を知ること、これから災害が起こったときに、自分の命を守るためのヒントにしていきたいと思っています。

の交流があったからだと日置市の広報誌に書いてあった。私はこれを読んで地域での交流が人の命を救うことができるのだということを知った。地域で交流するということは土砂災害だけでなく他の災害にも役立つと思う。しかし、最近ではコロナなどがあり、地域での交流が難しくなっている。だから、例えば朝にすれ違ったときにあいさつをしたり、地域の行事に参加したり簡単なことからでも交流ができると思う。

私は土砂災害が身近なところで起きていたことを知り、土砂災害は他人事ではないと思った。
私自身も土砂災害から命を守るように定期的にハザードマップで危険なところを確認し、すぐに避難できるように準備をしたい。また、毘沙門地区で地すべりが起きてから今年で三十二年が経つ。私のようにこのことを知らなかった人がいるだろう。毎年、土砂災害が多くの人々の命を奪っていく。過去に起こったことを、もし自分だったら何ができたかと考えようと思う。そして、私も当時消防団だった方のように、地域での交流を大切にして、もし土砂災害が起きた時に一人でも多くの命が救えるような行動ができる人になりたい。

令和7年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」
国土交通省・鹿児島県入賞作品(絵画)

国土交通事務次官賞



霧島市立舞鶴中学校1年
野崎 宏太さん
「声かけあって みんなで避難」

国土交通事務次官賞



鹿児島市立伊敷小学校5年
乗越 美季さん
「命を守る 日ごろの備え」

国土交通事務次官賞



始良市立重富中学校1年
道山 空美さん
「早めの避難で、命を守る」

県知事賞 最優秀賞



鹿児島市立福平小学校6年
前田 柊哉さん
「命を守れ！」

県知事賞 最優秀賞



鹿児島市立皇徳寺中学校1年
小田 李音さん
「命を守るために」

みんなで防ごう土砂災害
土砂災害防止月間
6/1~30
かけ崩れ防災週間:6/1と2

恐怖の土砂

少で逃げる！
その油断が命のキケン

どしゃ さいがい ほしゅう
**土砂災害防止についての
絵画・作文を募集します**
かいが さくぶん

どしゃほしゅう し
土石流、地すべり、かけ崩れなどの
土砂災害のようすや砂防しせつ
(砂防えん堤など)を見学したときに
見たこと、感じたこと、考えたことを
ドンドン送ってください。

応募について

内容・大きさ 絵画のかき方、大きさは自由。作文は400字詰め原稿用紙で小学生
低学年は2~3枚(800~1,200字)、高学年は3~4枚(1,200~1,600
字)、中学生は4~5枚(1,600~2,000字)。
どちらも未発表のものに限ります。

応募期間 令和8年6月1日~9月15日まで

送り先 あなたの住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学年を記入し、
都道府県庁砂防主管課
「土砂災害防止に関する絵画・作文募集」担当あて

賞 最優秀賞/優秀賞

発表 令和9年2月中

令和9年3月中に国土交通省又は各都道府県において行います。
これまでの入賞作品は国土交通省砂防部Webサイトで見ることができます。
https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sabo/kaiga_sakubun.html

どしゃさいがいのようす

さ ぼうとくほん
砂防読本

よう ご かいせつ
《用語解説》

- シ ラ ス** (P 6) 今から約2万5千年前、錦江湾の湾奥の火山噴火により、火砕流が周辺に流れくんだり、積もったので、軽石や火山灰から成る地層です。
主に鹿児島県を中心とした九州南部一帯に広く分布しています。
- 火 砕 流** (P 6) 火山噴火により、溶岩・軽石・火山灰などが高温の火山ガスと一体となって、火口より斜面を流れくだる現象です。
一般に、その温度は100~1000℃と高く、速度は秒速数10~100メートル以上ときわめて速く、火砕流がおそってきたら車でも逃げることはできません。高温なガスのため、通り過ぎたところはずべて焼きつくされます。平成3年6月3日、雲仙普賢岳の火山噴火に伴い発生した火砕流は、43名もの人々の命を一瞬のうちにうばいました。
火砕流による災害は、火山災害の中で最も恐ろしいものの一つです。
- レベル4土砂災害危険警報** (P 23) 過去のデータにもとづき、どれくらいの雨が降ったら土石流やがけ崩れが発生するか、基準をあらかじめ決めておき、それを上回ったときに、土砂災害が発生する危険が迫っていることを地方気象台と都道府県が共同で発表する情報です。市町村長は、レベル4土砂災害危険警報の発表や、川やがけの状況などを踏まえて、土砂災害の発生が予想される場合は、住民に対して避難を指示します。
- 避 難 指 示** (P 23) 被害の危険が目前に迫っている場合に、市町村長が避難を指示することです。